

柏崎大好き作戦！「まちのわくわくはっけん」

子供たちが日常生活している町並みの中で、四季と共に変化することに気づかせたり、そこで働いている人々の思いにふれたりすることで柏崎の魅力を発見させたい。そこで、生活している商店街のまち探検を通して「柏崎っていい町だな」と気づいたことを「わくわくカルタ」に書き溜めたり、「季節をあじわう会」を開催したりして柏崎への愛着を育む活動が大切です。

1 地域と密着したふるさとに愛着を育む指導

2年生の生活科では、自分の町を探索し、調べる活動の中で町の特徴やよさ、季節による自然の変化、そこで暮らしたり働いたりする人々の様子に気づかせる学習があります。本実践は生活科の学習と関連づけ「柏崎学」を目指す、「ふるさとに誇りと愛着を持ち、夢と希望に向かってたくましく生き抜く児童」を育むことを目的に、子供たちの生活する商店街を対象に繰り返し探検することにしました。

学区には、駅仲通り、ニコニコ通り、えんま通りやピッカラ通りと呼ばれる多くの商店街があります。子供たちは商店街を繰り返し歩き、お店の中を見学します。その際、お店の方にインタビューするなどして季節ごとに変化する町並みやお店の商品などの変化を調べます。さらに、発見した季節感や旬なものを「わくわくカルタ」に表現したり「季節をあじわう会」を開催したりして柏崎の魅力を発見させたいと考えました。



2 指導の構想

(1) 柏崎大好き作戦！「まちのわくわくはっけん」の全体構想

柏崎大好き作戦！「わくわくはっけん」全体構想			
春のわくわくはっけん(15) ○春のたんけん ・安全に歩いて見学したりして、自然や商店街から春を見付ける。 ○春のわくわくカルタ ・街たんけんで見付けた「春のわくわくかるた」をつくる。 ○春をあじわう会 ・花見をしながら、自分たちで作った白玉団子を味わう。	I まちのわくわくはっけん (60) ☐ 自分たちが住む町の自然や、そこで暮らす人々に親しみをもってかかわったり季節の変化に応じて、自分たちの生活を楽しんだりしようとする。◆行動・発言 ☐ 探検で発見したことや、季節を楽しむために活動を工夫したりしたことなどを、絵や文にまとめて、周りの人に伝えることができる。 ◆カード・カルタ・発言 ☐ 季節によって自然や町の暮らしが変わっていくことや、工夫することで自分たちの生活をより楽しむことができることに気付く。 ◆カード・レポート ☐ 町の公共施設の利用の仕方を考え、マナーや安全に気を付けながら利用することができる。 ◆行動・カード	夏のわくわくはっけん(15) ○夏のたんけん ・商店街や公園などで、春と比べて変わってきたことを見付けたり、インタビューをしたりする。 ・柏崎の夏ならではのものを発表する。 ○夏のわくわくカルタ ・「夏のわくわくカルタ」をつくったり、春のかるたと比べたりする。 ○夏をあじわう会 ・みんなで育てたジャガイモや、夏野菜を味わう。	冬のわくわくはっけん(15) ○冬のたんけん ・秋から変化した商店街の様子を見付け、商店街の人にインタビューする。 ・商店街で働く魅力をインタビューする。 ○冬のわくわくカルタ ・「冬のわくわくカルタ」をつくって紹介し合い、他の季節のカルタと比べる。 ○冬をあじわう会 ・育てたダイコンでおでんを作って、冬を味わう。 ・お世話になった人を招待する。
秋のわくわくはっけん(15) ○秋のたんけん ・夏のたんけんと比べて変わってきたことを見付け、商店街の人にインタビューする。 ○秋のわくわくカルタ ・「秋のわくわくカルタ」をつくって紹介し合い、夏のかると比べる。 ○秋をあじわう会 ・秋のたんけんで見付けたお菓子や果物を味わう。			

(2) 指導の方策

一年間、春夏秋冬の季節でシリーズ化して探検して活動を繰り返す。

- 季節ごとに商店街を探検し、その都度お店の方にインタビューを行い、気づきを大切にする。
- 実体験やインタビューでの気づきを「わくわくカルタ」に作成する。
- 「季節をあじわう会」を開催して季節感をより感じる。

3 活動の実際（冬のわくわく発見の実際）

(1) 単元名 冬のわくわくはっけん

(2) ねらい ①まちたんけんを通して、季節の変化を感じ、他の季節と比べ、その違いに気付くことができる。

②商店街で働く方々の思いをインタビューすることで、柏崎で働くことの魅力を感じ取ることができる。

(3) 単元の構想

春から行ってきたまち探検も今回で4回目になります。これまでの町探検で、季節ごとに変化する商店街の町並みや、お店の商品などを見学し、実際に感じたことや気付いたことを五・七・五のかるとや学習カードに記します。冬のまち探検では、春から見学させて頂いている菓子屋、靴屋、青果店、洋品店の4店舗が冬の商品や、冬が旬の食べ物、春を先取りした商品などの陳列があることを気づかせたい。

つぎに、お店の方々は「お客さんに喜んでもらえるよう一生懸命働いている」「柏崎の町を元気にするために働いている」等、実際にお店の方々はどのような思いで働いているのか、インタビューする内容を考えさせます。

まち探検後、自分たちが見つけた「わくわく」を共有するために「あじわう会」を開催して、魅力的な商店街を目指していることに触れさせることにしました。

4 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	○春から秋までの学習を振り返り、冬のまち探検を想起させる。 ○商店街で働く方々に視点を向け、お店の方がどんな思いで働いているのかを予想する。	・これまで学習してきたことや児童の気づきをまとめたものを掲示する。 ・震災で被災した商店街のエピソードを例に、震災後の今も続けているお店の紹介を行い、児童に疑問をもたせる。
展開	○商店街で働く方々に質問する内容を考える。 ○<u>お店の人はどんな気持ちで働いているのだろうか</u>	・これまで季節を先取りしてきたお店や、旬なものを提供しているお店の例も出し、お店の人側の気持ちを想起させる。 ・グループで質問したい内容を考える。
終末	○全体で共有し、まち探検の準備を行う。	・お店の方に質問したい内容を全体で共有し、当日スムーズに行えるよう質問の準備を行う。

5 指導の結果、成果

(1) 春、夏、秋、冬のまち探検からの気づき

児童は、季節で繰り返し商店街を探検しました。その感想は次の通りです。

【児童の振り返りより】



- A児 ぼくは、お店には次の季節のものがすでに売っている理由が分かりました。それは、季節を先取りしているということです。その季節になってからでは遅いんだということが分かりました。
- B児 季節が変わるにつれて、お店の飾りや売り物が変わっていることに気づきました。だけど、一年間変わらない売り物もあったので不思議だなと思いました。
- C児 繰り返しまち探検に行くと、地域の人や、お店の人の笑顔がたくさんあると感じるようになりました。地域やお店の人たちは優しいなと思いました。

繰り返し体験することで、A児やB児は「季節を先取りする」商店街の工夫に気づきました。さらに、C児は繰り返し地域に足を運ぶことで、働く人々の笑顔や優しさについても気づきました。

(2) 柏崎で働く方へのインタビュー

柏崎で働く方へのインタビューから、お店の方の柏崎に対する熱い思いや、柏崎の魅力を再認識し、より柏崎に愛着をもたせます。

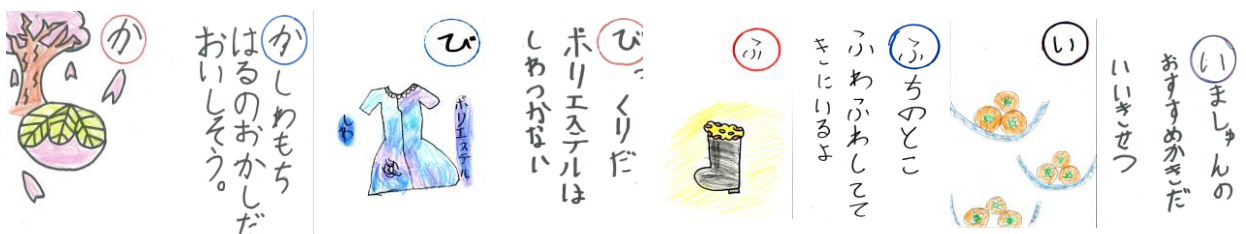
【児童の振り返りより】

- D児 何年間もお店を続けているというのを聞いて柏崎が好きだから何年も続けられるのだと思いました。柏崎の人に喜んでもらえるように一生懸命働いているというのを聞いて、私もこの商店街がもっと好きになりました。
- E児 お店の人は、お客さんの笑顔や、ありがとうの言葉をもらえるとうれしくなると言っていました柏崎が好きと言う気持ちやこの商店街が好きだという気持ちが伝わってきました。絶対にやめたくないんだということも分かりました。
- F児 私たちのインタビューにも笑顔で答えてくださったお店の方に感謝です。私も見習って学校での生活をより良くしていきたいです。

柏崎で働く方へのインタビューで、お店を続けられたのは柏崎が好きなことを知りました。さらに、お店の方の柏崎に対する熱い思いにふれ、柏崎も魅力を再認識しました。また、笑顔の大切さも学びました。児童は働く人の姿から柏崎への愛着が育っていきました。

(3) 五・七・五のかるたに気づき蓄積

カルタに気づきを残し、成果物として蓄積していくことで、達成感を得る児童の姿がありました。また、カルタを見返し、次の季節への見通しをもちやすくしました。



見学後の児童の気付きをカルタに蓄積したことで、春から見学させて頂いている菓子店、靴屋、青果店、洋品店の4店舗がそれぞれの季節で旬の食べ物や季節を先取りした商品などの陳列が工夫されていることに気付きました。

(4) 「季節をあじわう会」

子どもたちが育てた野菜や、まち探検で得た情報を基に、今が旬の食べ物を実際に食べ、これまで学習したことの発表する「季節をあじわう会」を行いました。

季節感をより感じる事ができ、季節をより楽しむ児童の姿が見られました。

【児童の振り返りより】

- G児 大根をおでんにして食べたらほっぺが落ちそうになりました。食べたらすぐにとろけました。本当においしくて大根は今の季節が旬なのだと思います。
- H児 畑の先生の宇佐美先生にも来てもらい、おでんを食べてもらいました。先生がとってもおいしいと言っていたのでとてもうれしかったです。
- I児 春夏秋冬すべての季節を味わいました。どれもすごくおいしかったです。
- J児 秋に植えた種は、あんなに小さかったのに、こんなに成長して雪の中でもっと甘くなった大根が食べられて幸せでした。

子供たちの感想の中にあるように、野菜栽培から季節感を感じることができ、まち探検と関連づけながら季節の変化に気づく姿が見られました。



5 まとめ

児童のふりかえりから、一年間繰り返し商店街を探検することで、季節の変化や旬のものなど、今まで見えなかったものに気付くことができました。そして、自らの気付きをカルタにして蓄積し、次の季節への探検への意欲付けと調べたことへの達成感につながります。さらに「季節をあじわう会」で、それぞれの季節の旬を味わうことは、季節の魅力を身体全体で感じる事ができました。

また、地域の方の働く姿や思いをインタビューすることで、柏崎の魅力を発見し、柏崎に愛着が生まれ、柏崎のよさに気付く児童の姿が見られました。

子供たちが日常生活している地域を四季の変化と共に繰り返し探検することで、身近な変化に気付くことにつながります。さらに、自ら考えてインタビューすることで働いている人々の思いに触れ、柏崎の魅力を発見することができます。

【柏崎小学校 佐藤 貴信】

地域探検から愛着を育てる実践

（例：小学校２年生 生活科「地域と生活、季節の変化と生活」）